

ランダデジタル印刷機の インクコスト

Printweek 誌のウェブサイトに興味深記事が載っていたので紹介する。

ランダ社はドイツの特殊化学品メーカー Atlanta 社から 1 億ユーロ (約 140 億円) の投資を受けるとの発表を 6 月に行った。その後、ベニー・ランダ氏はイスラエルの経済誌 Globes とのインタビューにおいて、ランダ社のビジネスモデルはインクを販売することにあり、ランダデジタル印刷機 1 台当たり 5 年間で 2500 万ドル (約 25 億円) のインク売上を見込んでいと語ったと伝えられている。その後、ランダ社のマーケティング担当者から、これはあくまでも可能性としての数字で実際の平均的な顧客における数字ではなく、特に枚葉の機械ではこのような数字にはならないとの訂正が入った。想定しているのは輪転方式のデジタルプレスを軟包装や出版で使用し、インクカバレッジの大きい絵柄の印刷を年間 3000 万平方メートル程度印刷した場合としている。

ランダデジタル印刷機のインク価格はまだ明示されておらず、またインクジェット印刷コストはインクカバレッジなどによって大きく異なってくるので、直接比較しにくい面はあるが、ある専門家の試算ではコダック Prosper6000 の発表している A4 一枚当たり 0.5 セント (約 0.5 円) の倍ぐらいになるのではないかとされている。

この様な高速のデジタル印刷機にとって、印刷する絵柄によるインクの消費量はコストや収益に大きな影響を与えるため、今までのように単純な通し価格ではなく、インクカバレッジを考慮した価格体系が今後は必要になってくるかもしれないと Printweek 誌は述べている。

なおランダデジタル印刷機のベータテスト実施時期は今年の末から、2015 年中旬までとさらに延期され、また最初のベータテストの顧客がまずランダ社において暫く稼働テストを行い、その成果に納得したら実際の現場におけるテストを行うということで、より一層慎重な姿勢を見せている。

インドの印刷優秀賞 (National Awards for Excellence in Printing)

第 9 回インド印刷優秀賞が 9 月 20 日にニューデリのアショカホテルにて開催された。応募点数は 2040 点 (136 社)、受賞作品は総数 240 点に及ぶ。カテゴリーは枚葉オフセット、輪転、小型オフセット、ミニオフセット (15"x20" 以下)、デジタル印刷、スクリーン印刷、フレキシソ・グラビアに分かれ、各カテゴリーの中で製品ごとでさらに細分化されている。今年は初めての試みとして、海外の優秀作品を展示するという企画があり、日印産連と欧州の Intergraf が作品を提供した。式典には 700 人程度の人々が参加しており、授賞の合間にダンス、奇術、歌などのエンタテインメントを盛り込むなど工夫を凝らしている。

インドの印刷業界は好調で、出版分野でも 8% 程度、パッケージ分野は 16% 程度の成長をしているといわれており、参加しているインドの印刷会社の経営者たちは業界の展望に自信を持っている人が多く見受けられた。

今回のこのイベント参加に合わせて、現地の印刷会社の視察も行う機会を得たので、11 月の上海で開催される FAPGA (Federation of Asia Pacific Graphic Arts) の会合と合わせた形で 12 月に出張報告会を行う。



授賞式の様子



受賞作品の展示



日本からの出展物